



KONICA MINOLTA

News Release

環境省「第7回ESGファイナンス・アワード・ジャパン」銅賞を受賞

2026年2月16日

コニカミノルタ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：大幸 利充、以下 コニカミノルタ）は、2026年2月16日、環境省主催の第7回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の「環境サステナブル企業部門」で銅賞（選定委員長賞）を受賞しました。

「環境サステナブル企業部門」^{*1}は、上場企業または一定規模以上の非上場企業を対象としており、環境関連の重要な機会とリスクを経営戦略に取り込み、企業価値の向上につなげ、環境にプラスの効果を生み出している企業を表彰するものです。



【評価されたポイント（「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」審査事務局より）】

気候変動対応や循環型社会の実現、生物多様性保全に関する積極的かつ高い目標を設定し、環境課題を事業機会として捉え、顧客のCO₂排出削減・資源利用の抑制支援を経済価値に結びつけていた点が評価された。また、TNFD^{*2}開示ではシナリオ分析で事業ごとに機会・リスクを捉え、AR3T^{*3}を意識した体系的な対処方針を示している。

【コニカミノルタのサステナビリティ戦略】

コニカミノルタは、2030年に想定される社会・環境課題を洞察し、「気候変動への対応」や「有限な資源の有効利用」などのマテリアリティ（重要課題）を設定しています。

特に「気候変動への対応」では、自社の責任範囲外のCO₂削減に貢献し、その削減量（削減貢献量）が自社責任範囲と定められるCO₂排出量（スコープ1、2、3）を上回る状態（カーボンマイナスと定義）を目指して取り組んできました。その結果、当社のソリューションや技術の提供を通じ、お客様・社会でのCO₂削減貢献と自社の売上増加を両立する形で、2025年度にカーボンマイナスを予定どおり達成する見込みです。

さらに2050年にはスコープ1、2、3をネットゼロ^{*4}にしていく目標を設定しています。

*1 環境省「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門

<https://www.env.go.jp/policy/award.kigyobumon.html>

*2 TNFD：自然関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）の略称で、自然資本および生物多様性に関する企業のリスク管理と開示枠組みを構築する国際的なイニシアチブ。

*3 AR3T：回避（Avoid）、軽減（Reduce）、復元・再生（Restore & Regenerate）、変革（Transform）の頭文字の略称で、自然関連のリスクと機会への対応策や行動を体系的に検討するためのフレームワーク。

*4 ネットゼロ：自社のバリューチェーン全体で生じる温室効果ガスの排出が実質ゼロである状態。

----- 報道関係お問い合わせ先 -----

コニカミノルタ株式会社 広報部

担当：西上 070-2186-6872 / 伊藤 070-3879-4706